
殺し屋さん、今おヒマですか？

彩月一

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

殺し屋さん、今おヒマですか？

【Nコード】

N4477Q

【作者名】

彩月一

【あらすじ】

裏社会で殺し屋を営むα（アルファ）の前に、家無し少女のS^{エス}が現れる。

Sはαに、殺してくれと頼むが……。

「お金があれば、イイのよう？
じゃ、ガンバって貯めるー。」

殺し屋aと少女S

「アンタ、殺し屋さんでしょお？」

裏通りを歩いていたら、後ろから声がした。

振り返ると、家無しとおぼしき少女がこちらを見つめている。じっと観察していると、彼女はニツと歯を見せて笑った。

「やっぱ、そうだ。」

と嬉しそうに言う。

「ね、あたしのコト、殺してくれないかなあ？」

突然のその言葉に、思わず目を見開く。

「…金にならん仕事はしない。」

やっとの事でそれだけを言うと、踵を返す。

遠ざかる俺の姿を、彼女はじっと見つめていた。

運命の気まぐれ

血の香りに包まれるのは、キライじゃない。

午前一時、帰宅。

玄関前に黒い塊を発見。

「…おい。」

声を掛けると、それはもぞもぞと動いた。

「ここで何してる。」

顔を上げたそれは、昨日の少女。

目が合うなり、無邪気に笑う。

「お前なあ…。」

呆れた声音は、不服そうな少女の言葉に途切れた。

「お前じゃないよう。」

あたいはSってのー。」

小さく唇を尖らせる。

諦めて溜め息を吐き、鍵を取り出した。

「どけ、邪魔だ。」

そう言うと、素直に横にずれた。

小さく丸まる姿を見て、また溜め息を吐いた。

「…今日だけだ。
さっさと入れ。」

きよとん、としたSと目が合った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4477q/>

殺し屋さん、今おヒマですか？

2011年10月8日14時28分発行